

## 横浜市内のみなまきラボ周辺でIoTスマートライフ実証実験を開始 ～AI、IoT技術を活用し家の中の生活支援からまちのコミュニティ活性化をめざして～

株式会社NTTドコモ(以下、ドコモ)は、横浜市、相鉄ホールディングス株式会社と、AI、IoT技術を活用し、まちの活性化をめざしたIoTスマートライフ実証実験(以下、本実証実験)を、横浜市と相鉄ホールディングス株式会社が進める「相鉄いずみ野線沿線 環境未来都市」の対象地区であるみなまきラボを中心とするエリアで、2018年10月13日(土)から開始します。

ドコモは、これまでI・TOP横浜<sup>※1</sup>内の未来の家プロジェクト<sup>※2</sup>の一環として、IoTスマートホーム<sup>®</sup>を用いた生活モニタリング実証実験を実施してきました。今回、家の中での個人の生活支援だけでなく、人々の活動や街の状態など、あらゆるデータを統合、価値化することで、コミュニティや街を活性化し、人々の生き生きした生活の実現をめざします。

本実証実験では、AI技術を用いた地域の方々向けのチャットボットを活用し、地域のイベント情報や生活に役立つ身近な情報などを提供するとともに、写真を撮って投稿するスポット投稿機能を活用し、まちのおすすめ情報やベビーカーで通しやすいルートなど、地域の方々からのニーズを広く収集し、共有する相互対話システムを構築しコミュニティ活性化を図ります。

また、フィットネスリストバンド(対象者の睡眠時間、就寝時刻、起床時刻や歩数、歩いた距離、消費カロリーなどを自動計測)を活用し、地域の方々の活動状況の可視化やコミュニティ内での共有により、地域への愛着を高め、コミュニケーション活性化などの有効性を検証します。従来の自分自身の健康管理サービスに加え、参加者同士で地域のつながりを意識してもらったり、全員で共通目標を達成したり、地域ごとに歩数を競ったりしながら、地域の方々のコミュニティを活性化します。

さらに、IoTスマートホームで使用していたスマートミラーを相鉄線沿線のエリアマネジメント拠点である「みなまきラボ」(商業施設「相鉄ライフ 南まきが原」内)に設置し、活動量計と連動させ、参加者全員の目標達成状況やグループごとの歩数順位などを表示することにより、地域の集客向上、共通の話題の提供によるコミュニティ活性化の可能性も検証します。なお、本スマートミラーは2018年10月16日(火)から幕張メッセで開催のCEATEC JAPAN 2018にて展示予定です。

なお、本実証実験は横浜市と横浜市立大学、日本電信電話株式会社との「官民データ活用による超スマート社会の実現に関する包括連携協定」の取り組みの一つとして実施します。

今後もドコモは、AI、IoT技術を通して、家、コミュニティ、まちの社会課題の解決、エコシステム社会の実現をめざします。

※1 I・TOP(アイトップ)横浜は、横浜市が2017年4月に立ち上げた横浜経済の強みである「ものづくり・IT産業の集積」を生かし、IoTなどを活用したビジネス創出に向けた交流・連携、プロジェクト推進、人材育成などの場。「IoTオープンイノベーション・パートナーズ」の略。

※2 人工知能(AI)およびIoTを活用し、居住者のリラックス度や活動量などの生活状態を可視化することで気づきを与えることや、快適な室内環境づくりを行うことを検討・推進するプロジェクト。

\* 「IoTスマートホーム」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

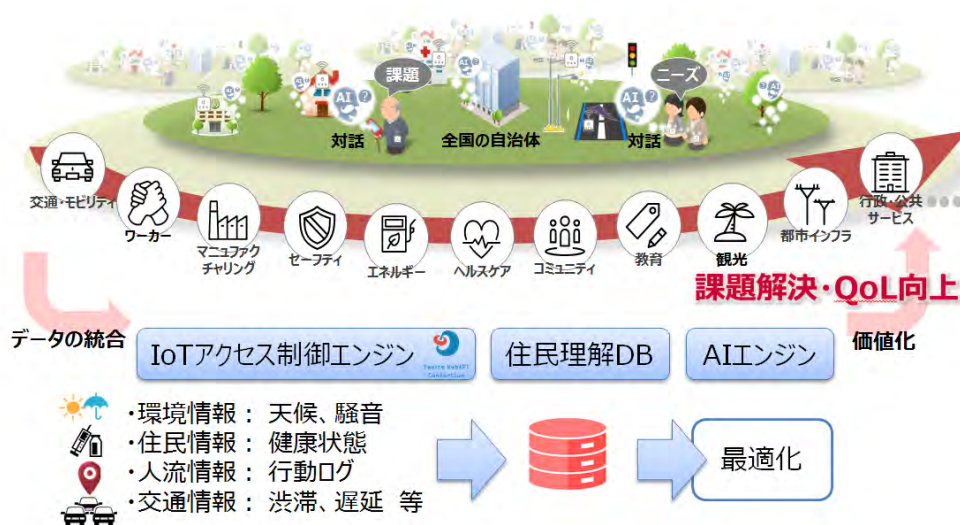
本件に関する報道機関からのお問い合わせ先
株式会社NTTドコモ サービスイノベーション部 第2サービス開発担当 TEL: 03-5156-2124

## IoTスマートライフ実証実験概要

### 1. IoTスマートライフ実証実験イメージ

人々の活動やまちの状態など、あらゆるデータを統合し、価値化することで、コミュニティやまちが活性化し、人々の生き生きとした生活の実現をめざします。

地域の方々へのフィットネスリストバンドの配布により、活動データを収集し、統計処理することで、人々の生活を理解するための住民理解データベースを作成します。この住民理解データベースとAIエンジンを用いて、地域の方々向けのチャットボットという形で、コミュニティを活性化させる情報やサービスを提供し、コミュニティ活性化を検証します。



#### 【IoTアクセス制御エンジン】

ドコモが開発したIoTアクセス制御エンジンは、デバイスWebAPI<sup>※</sup>の技術を用いており、異なる通信規格のIoT機器を一つのアプリケーションで制御することを可能としています。本エンジンの利用により、さまざまなIoT機器の遠隔管理やデータ蓄積が可能となり、多くのデータ集積が容易で、AI・ビッグデータ解析推進につなげていくことができます。

#### 【住民理解データベース】

人々の活動やまちの状態など、あらゆるデータを統合し、人々の生活を理解するために統計処理、匿名化処理したデータベースです。

#### 【AIエンジン】

NTTグループのAI「corevo<sup>®</sup>」を構成するさまざまなAI(人工知能)技術を用いた推論エンジンです。サービスの内容ごとに適切なAIエンジンを活用しサービス提供します。

※ デバイスWebAPIとは、120社<2018年6月1日(金)現在>の企業が参画するデバイスWebAPIコンソーシアムで議論・検討中のさまざまなデバイスとの連携を実現する仕組みです。

\*「corevo®」は、日本電信電話株式会社の登録商標です。[\(http://www.ntt.co.jp/corevo/\)](http://www.ntt.co.jp/corevo/)



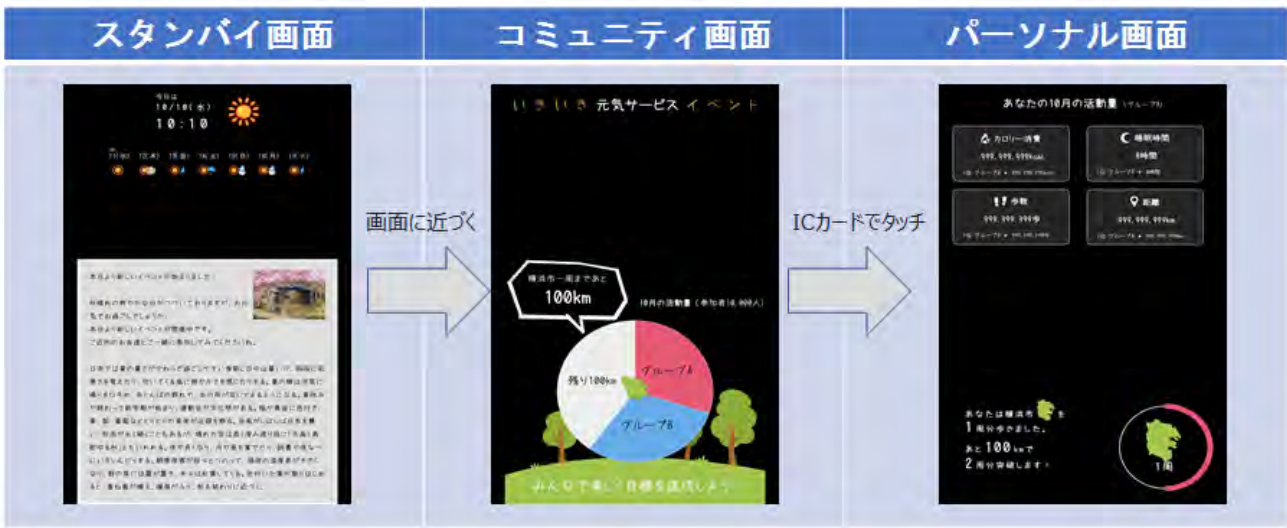
## 2. 地域の方々向けのチャットボット

地域のことやイベント情報、地域での生活に役立つ情報などをテキストの会話形式で提供するAIエンジンを活用したロボットです。さらに、地域の方々が撮った写真をお互いに共有するスポット投稿サービスなども提供します。



チャットボット画面

## 3. スマートミラー



スマートミラー画面の遷移

### ◇スタンバイ画面

天気予報やイベント情報の表示など地域の方々の興味を引く内容を表示します。

### ◇コミュニティ画面

参加者全員の累計歩数や総距離、総消費カロリーなどの統計データを表示します。全員で横浜一周に相当する総距離をめざすなど目標達成することで地域の方々のつながりを意識できる内容を表示します。

#### ◇パーソナル画面

目標達成に向けた参加者個人の貢献度を表示します。



#### 《サイズ》

- ・高さ: 160cm
- ・幅: 50cm
- ・奥行: 50cm

#### 《構成》

- ・PC本体を内蔵し、カメラ、マイク、カードリーダー、スピーカーを接続

スマートミラーの仕様